

挨拶一日文研・創立 30 周年記念国際シンポジウム開催に向けて

小松和彦

国際日本文化研究センター（日文研）は、1987 年 5 月に、「国際的、学際的、総合的な共同研究の推進」と「世界の日本文化研究者たちの支援」を主な目的として掲げ、当時の文部省直轄の大学共同利用機関として設置され、昨年（2017）年 5 月に、創立 30 周年という節目を迎えました。

設立当初は、設立の経緯が異例づくめであったこともあって、日文研設立の評価は毀誉褒貶かまびすしいものがあり、とりわけ一部の歴史系研究者や学会からは、特異な考えに基づいた研究がなされるのではないかと危惧が表明されたりもしました。

しかし、教職員の忍耐強い努力と、国内外の客員・外来研究員たちの支援もあって、各方面から注目される独創的な共同研究を積み重ね、現在では、そうした懸念を払拭し、国際日本文化研究センターの略称である「にちぶんけん」（Nichibunken）の名を知らない者は日本研究者として恥ずかしいと思われるほど、国内外の研究者から注目される国際的な研究所へと発展してきたといえるのではないかと考えております。

設立当初からの教員はほとんど退職しましたが、次世代への交代も順調に進み、若手所員の活躍もめざましいものがあります。

設立以来組織された共同研究はおよそ 150 を数え、それらに参画した国内外の研究者はおびただしい数にのぼります。海外での研究集会やワークショップも数多く行ってきました。とりわけ欧文で書かれた日本紹介・研究書の収集は世界でも屈指を誇っています。

また、海外から招聘した外国人客員研究者も 500 人を越え、これらの研究者たちは、それぞれの国の日本研究の先導者であり、日本文化の魅力を伝えてくれる伝道師の役割を担っていると同時に、海外の日本研究のネットワーク形成にも貢献していただいております。

このように、日文研は、多様でユニークな学際的共同研究や、世界を駆けめぐっての学術外交・国際的支援、日本関連の貴重な資料収集を進めてきたわけですが、この 30 年間で、日文研を取り囲む社会・文化の状況は大きく変化しており、とりわけ経済効果を優先する昨今、人文社会科学への風当たりが厳しくなっています。日文研もまた、こうした国内外の状況の変化に対応してその研究内容や機能を徐々に変えてきましたが、創立 30 周年という節目を迎えたことをきっかけにして、目下、これまでの日文研の成果や問題の総点検作業を進めているところです。

そこで、30 周年を記念する一連の事業を締めくくるシンポジウムとして、日文研で研究を積まれた方々にお集まりいただき、海外から見た日文研の来し方・行く末に関し

て、忌憚のない感想や批判、アドバイスを頂こうということになりました。

皆様におかれましては、ご多忙のことかと思いますが、ふるってご参加くださるようお願いいたしますとともに、日文研において旧知の方々と旧交を温めていただければ幸いです。